

**第3回エコエリアやまがた推進コンクール  
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**  
※掲載している情報は平成20年度時点のものです。

名 称	白鷹町資源循環型農業推進協議会
所在地	白鷹町
<p>1. 取組の背景・経過等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県下に誇る酪農の産地である当町において、大量に出される家畜排泄物の利活用が課題とされていた。それらの解消及び耕畜連携技術、住民へのエコ農業への関心、理解の向上を目的として平成17年度より3カ年事業に取り組んできた。</li> </ul> <p><b>《取組の経過》</b></p> <p>平成17年度 堆肥の利活用アンケートの実施 白鷹町農業祭におけるPR活動に実施</p> <p>平成18年度 モデルほ場の設置による堆肥の散布の経費に対する補助の実施（水稲、枝豆、アスパラ） 白鷹町農業祭におけるPR活動の実施</p> <p>平成19年度 モデルほ場の設置による堆肥の散布の経費に対する補助の実施（水稲、枝豆、アスパラ） 白鷹町農業祭におけるPR活動に実施 『どりいむ農園』『（農）サファムしらたか』による直販売時のパンフレット等PR活動補助 エコ農業先進地の視察（庄内町、鶴岡市） モデルほ場栽培作物利用『元気弁当コンクールの実施』『元気弁当親子料理教室』</p> <p>2. 農業経営・技術と取組姿勢</p> <p>（1）環境に配慮した農業技術の実践と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西置賜農業技術普及課指導による、モデル地区内による有機堆肥散布の実施による化学肥料の軽減と良質の有機堆肥生産技術の向上が行われた。</li> </ul> <p>（2）家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用廃ビニール等のリサイクル利用の実践と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルほ場地区において、畜産農家と耕種農家で稲わらと家畜排泄物の稲わら交換のシステムを構築（平成20年より実施）</li> </ul> <p>（3）温室効果ガスの排出の抑制等を含む先進的な環境保全型の農法の実践と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲わらの収集による温室効果ガスの軽減対策を計画している。（平成20年より実施）</li> </ul> <p>（4）持続的な環境保全型農業の実践と経営確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料高騰対策として稲わらの利用による自給飼料確保による経費の削減を目指す。</li> </ul>	

### 3. 周辺等への影響力・普及力

#### (1) 創造性・地域的な影響力

- ・町内における耕種農家と畜産農家の耕畜連携農業の確立
- ・PR活動による環境保全型農業の認知、補助対象以外であるハウス等園芸作物に対しての有機堆肥の利用の増進（エコファーマー取得者の増大）

#### (2) 消費者等との交流、食農教育・環境教育への参画等を通じた地域の活性化と地域社会発展への貢献

- ・地産地消推進協議会とのタイアップによる『元気弁当コンクール』『元気弁当親子料理教室』における食農教育の実践
- ・どりいむ農園直売所におけるエコ農業実践者と消費者の交流
- ・有機堆肥利用モデルほ場に対しての看板の設置による消費者へのPR活動による現地交流

#### (3) 地域の農業資源保全と活性化

耕種農家において有機堆肥散布の実施による化学肥料の軽減と畜産農家において有機堆肥の生産技術向上が図られた。

### 4. その他特記事項

有機堆肥ほ場について、西置賜農業技術普及課の協力による土壌調査、生育調査の実施による事業フォローアップ

### 5. 取組の成果と展望

町内において耕畜連携農業の確立と、有機堆肥利用栽培作物を利用した食育、住民に対する環境保全型農業の認知が高まった。今後住民のエコ農業について広報等を利用してさらなる関心を持たせていきたい。

#### 《実施状況》



元気弁当コンクール風景



元気弁当親子料理教室



有機堆肥投入ほ場看板設置



モデルほ場栽培米の直販売



エコ農業のPR活動



エコ農業実践者のPR



エコ農業実践者のPR



フォローアップ（生育調査風景）